

変わる時代の確かな視点

News Release

平成 23 年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業

「認知症を有する人への適切な支援に資する認知症ケアモデルの研究 －認知症サービス提供の現場からみたケアモデル研究会－」事業実施報告

2012 年 4 月 17 日 (火)

ニッセイ基礎研究所では、平成 23 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業として実施した、掲記案件について実施報告を取りまとめましたので成果概要を公表致します。(実施要綱第 6 条第 4 項に基づく公表)

なお、報告書全体は PDF ファイルにて弊社 HP 上に掲載公表しております。

[事業実施概要]

本研究会は、介護保険制度施行以来度々言われてきた「新しい認知症ケアモデルの確立」や、「認知症ケアの標準化」、「科学的根拠に基づく認知症ケアの確立」等の課題を受けて、今後、どのような認知症ケアモデルが求められるかの議論を行う場として開催した。

この研究会の意義は、①従来のケアモデルを吟味し、現時点における認知症ケアの考え方について、認知症ケアの実践現場における経験と知識を集大成したこと、②認知症ケアを「ライフサポート」として提唱し、医療も介護も認知症の人の生活の支援の一部であることを、はっきりと定義づけたこと、そして、③認知症ケアは多職種連携が不可欠であるが、その主体は介護にあり、医療は極めて重要な役割を持っているが、むしろ補完的なものであると位置づけたことである。

[研究会委員構成]

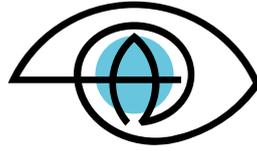
- 大島 伸一 独立行政法人国立長寿医療研究センター総長
- 大谷 るみ子 社会福祉法人東翔会 グループホームふあみりえホーム長
- 小山 剛 社会福祉法人長岡福祉協会高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長
- 武田 純子 有限会社ライフアート グループホーム福寿荘総合施設長
- 玉井 顯 医療法人敦賀温泉病院院長
- 長野 敏宏 財団法人正光会御荘病院院長/特定非営利活動法人ハートinハートなんぐん市場理事
- 西山 隆 和光市北地域包括支援センター長
- 東 憲太郎 医療法人緑の風 介護老人保健施設いこいの森理事長・施設長
- 宮島 渡 社会福祉法人恵仁福祉協会高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ総合施設長

(○印は委員長、50 音順、敬称略)



RESEARCH

株式会社 ニッセイ基礎研究所 102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 | Tel.03-3512-1800 [代表] | Fax.03-5211-1058 | www.nli-research.co.jp



変わる時代の確かな視点

[事業成果概要]

報告書の中では、認知症ケアに携わる全ての専門職が共有し、認知症高齢者支援策の基盤として活かしていくべき考え方として、「認知症ケアの基本」、および「認知症ライフサポートモデル」を研究会の意見としてまとめた。

1. 「認知症ケアの基本」について

認知症ケアに携わる医療職や介護職などが、各々の専門領域に偏りがちな認知症ケアの視点(理念や目標)を一致させていくために、全ての専門職がよりどころしていくための「認知症ケアの基本」について議論し、その考え方をまとめた。

①本人主体のケアを原則とすること

- ・認知症を有する人を、各々の価値観や個性、想い、人生の歴史等を持つ個別の「人」として尊重する「本人を主体とするケア」に取り組んでいく。
- ・認知症ケアに携わる全ての専門職は、本人への共感や理解から認知症ケアが始まることを理解し、生活支援全般にわたる権利擁護に取り組んでいく。

②社会とのつながりと生活のなかでのケアを提供すること

- ・本人の生活の継続性や地域社会の中の支援を基本に考えていく。
- ・本人のなじみの暮らし方、なじみの関係が継続できるように支援していく。

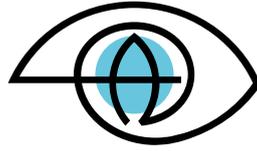
③本人の力を最大限に活かしたケアに取り組むこと

- ・本人が有する「力」を最大限に活かし、「生きがい」や「やりがい」のある暮らしを支援する。
- ・本人が有する力は、ADL、IADL等だけで捉えず、地域の人との関係性や地域資源とのつながりを含めたものとして捉えていく。
- ・できないことに目を向けるのではなく、できることに目を向けて支援していく。

④早期から終末期までの継続的な関わりと支援に取り組むこと

- ・本人のニーズに応じて、認知症の早期から終末期まで、必要な医療や介護がそれぞれの専門職に適切につながる体制を整えていく。
- ・認知症の早期発見と本人への早期介入等による適切なケアの提供で、発症後の状態悪化やBPSDの発症を最小に抑えていく。
- ・本人の心身状態への対応や生活支援等を含めて、トータルな視点でのケアサービスの提供やサポート体制を整えていく。
- ・原因疾患ごとの認知機能障害等の症状の特徴、治療の可能性と限界、予後の違い等に関する基本的な医療情報を関係者のなかで共有し、段階に応じた日常生活支援に活かしていく。





変わる時代の確かな視点

⑤家族支援に取り組むこと

- ・家族は、本人支援の最も貴重な資源である。
- ・家族の心情を理解すると同時に、家族への支援も欠かせない取り組みである。

⑥介護・医療・地域社会の連携による総合的な支援体制を目指すこと

- ・医療、介護、地域社会等が連携した総合的な支援として認知症ケアに取り組んでいく。
- ・認知症ケアは生活支援の側面が大きいことから、ケアの提供現場は在宅や地域社会で展開されるべきである。また、その中核を担うのは介護サービス専門職の役割である。
- ・医療には、正確な診断、適切な治療、医療情報の提供、およびセーフティネットの役割などの重要な役割が求められるが、ケアの中核を担うのが介護であることを理解して、本人、家族、介護サービスのサポート機能を果たすことが求められる。
- ・認知症ケアに携わる各々の専門職が、お互いの役割や専門性を理解し、相互に協働していく必要がある。

2. 「認知症ライフサポートモデル」の提案

これまで、認知症ケアに携わる様々な専門職は、各々の領域で、高齢者の尊厳の保持や QOL 向上に向けての取り組みが試行錯誤的に続けられてきた。また、医療は、認知症の人の「疾患」に焦点を当てた脳科学からのアプローチを主な方法論とし、介護は、認知症となった人の人生や生活者としての視点を重視したアプローチを得意としてきたという、専門性や役割の違いがある。そのため、医療、介護の連携がとりづらく、それぞれが得た情報や判断はそれぞれの領域に利用され、結果的にばらばらの対応になっていることも多かった。医療と介護が、認知症の人の生活支援がケアの目的であるという共通認識に立って、相互に連携し、統合的なケアを提供してゆくことが求められる。今後の認知症ケアを推進する上では、認知症の人の生活を総合的、継続的に支えてゆく視点と、本人が有する病態(中核症状、身体疾患、体調変化等)への対応を統合したケアモデルが必要になると考えられる。

以上のことから本研究会は、「認知症ライフサポートモデル」を提案するに至った。

この認知症ライフサポートモデルは、医療も介護も認知症の人の生活支援の一部であり、それぞれの専門職が相互の役割や機能を分担し、一人ひとりの認知症の人に統合的なケアを提供していくことを目的として考えている。各々の専門領域に偏りがちな認知症ケアの視点(理念や目標)を一致させ、ケアの個性を重視しつつ、普遍性を高めてゆくことを目指そうとするものである。

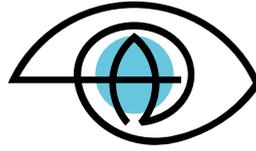
【本委員会における定義】

認知症の人への医療・介護を含む統合的な生活支援

【説明】

認知症ケアは、





変わる時代の確かな視点

(1) 疾病および体調管理から、日常生活の支援、自己決定に関わることまで、総合的な支援が求められており、(2) 早期から終末期まで地域社会の中で支えていく継続的な関わりを基本に、生活支援を中心とするケアの提供が求められる。「認知症ライフサポートモデル」は、医療も介護も生活支援の一部であることを十分に認識し、医療と介護等が相互の役割・機能を理解しながら、統合的なケアに結びつけていくことを目指している。

ライフ(Life)は、

「生命」「生活」「人生」等の意味があり、その人が生きてきた人生や、出会いから終末までの継続的な関わりが含まれる言葉である。

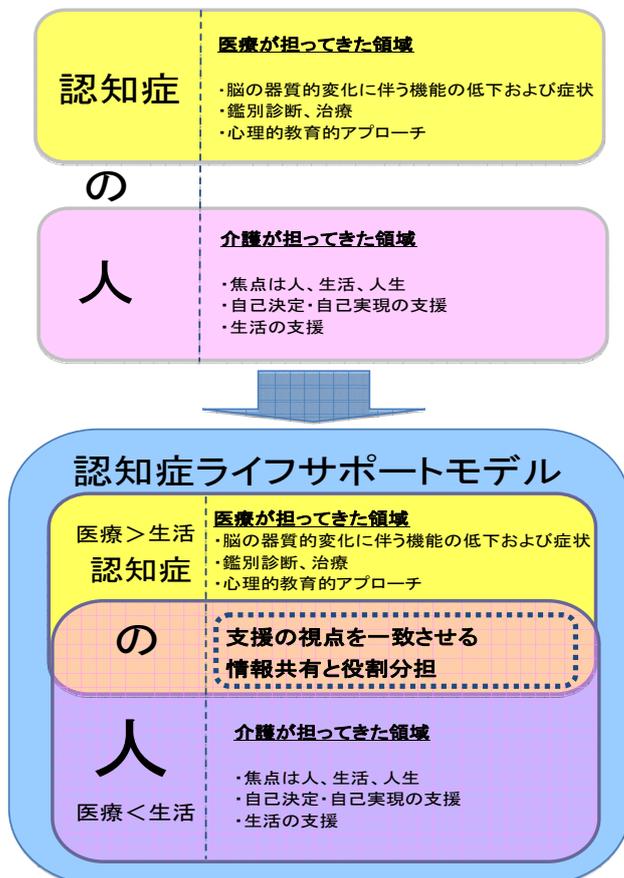
サポート(Support)は、

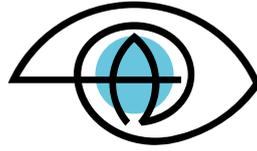
支える、支持する等の意味があり、主体は本人であることを前提とする言葉である。

以上の考え方から、「認知症ライフサポートモデル」という言葉が選択された。

認知症ライフサポートモデル

認知症の人への医療・介護を含む統合的な生活の支援





変わる時代の確かな視点

認知症ケアの「モデル」を考えると、それはしばしば誤解されるような個別性を無視した安易な類型化や画一化であってはならない。認知症ケアにおいて高い個別性が求められることを大前提とした上で、優れた認知症ケア現場の経験と知恵から、最低限規範にすべき理念や方法論を抽出・言語化し、「モデル」として再構成することが本研究会の目指すところであった。

人の暮らしは、制度や仕組みによって規制されるものではなく、人の暮らしを支えるために、制度や仕組みが創られるべきである。また、認知症の人の地域での生活を支えていく上では、介護保険サービスや自治体が独自に提供する「フォーマルな支援」だけでなく、家族や地域住民等の支えによる「インフォーマルな支援」の充実が欠かせない。この報告書では、多様な支援が折り重なって認知症の人を支えていくことが、今後、激増する認知症の人の支援に不可欠であることを前提に、その中核に、「認知症ライフサポートモデル」の考え方を根づかせていくことを提案している。

この件に関するお問い合わせ

●
ニッセイ基礎研究所
102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | www.nli-research.co.jp
企画総務部・広報担当 梶本健司
生活研究部門 山梨 恵子
Tel.03-3512-1772 | kajimoto@nli-research.co.jp



RESEARCH